

平成 30 年 1 1 月 6 日

南 の 風 2 8 6

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

最近気になるパートⅡです。

ディフェンスの方向付け、いわゆるディレクションです。

ディレクションとは、オフェンスの攻める方向をライン側やミドル側に限定し、5人のディフェンスが意思統一し協力して守る形態をいいます。

女子ワールドカップでの日本女子は、マンツーマン、ゾーンに限らずノーミドル戦術（ペイント側には抜かせないで、エンドやサイドライン側に追いやる）のディレクションでした。

プエルトリコ戦、中国戦を観てもそうなのですが、ドリブラーに対してかなり大胆に方向付けをしているケースがありました。誘導するのですから、当然待ち構えてプレスしたり、後ろからトラップを仕掛けたりしてプレッシャーを掛けるのです。

ビデオでゲームを観て感じたことです。サイズのある外国の選手がドライブで攻めてきた時、ディレクションしてしまうと、身体を寄せられて押し切られてしまい、後ろ足が引けて抜かれるケースが見られました。そして、最初（ボールを受けた時）のプレッシャーがない分（どちらかコースが空いている）1対1でやられる場面が多くなります。ディレクションする際に、コンタクトに負けない体の強さが必要になります。

ミニバスや中学の大会でも、ノーミドルで戦うチームがあります。それぞれのチームの戦術ですから「ディレクションは、『いい』とか、『悪い』」とかいうつもりはありません。ただチームの実態に合わせることと、目的をもって取り組むことが重要なポイントになります。

シェルディフェンスの手段としてのディレクションには、ノーミドルディフェンス（ファンディフェンス）とノーラインディフェンス（ファネルディフェンス）があります。中川文一氏（元全日本女子のヘッドコーチとしてアトランタ五輪7位、シャンソン化粧品で日本リーグ10連覇、現在 WJBL トヨタ紡織ヘッドコーチ）やジェリコ・バブリセビッチ氏（元全日本男子ヘッドコーチ）はノーラインを取り入れていました。ノーミドルを採用して結果を残したのは、内海知秀氏（元全日本女子ヘッドコーチとしてリオ五輪ベスト8、現在レバンガ北海道のアドバイザーコーチ）です。

ノーミドルディフェンスの利点としては、相手を一方のサイドに押し込めることができること、スペースとプレイの選択肢を限定できることです。弱点としては、ローテーションによるミスマッチが発生する確率が高いことと、スクリーンアウトがし難いことです。また相手をスピードに乗せると、レイアップシュートされ易いことです。

ノーラインディフェンスの利点は、基本的にローテーションしないのでリバウンドのスクリーンアウトは明確になります。またミドルエリアにはヘルプの味方がいるのでレイアップシュートされ難いことです。弱点としては、ミドルレーンにボールが進入した際に、パスの方向の選択肢が広がることです。

マンツーマンディフェンスでは、一般的にノーミドルが多用されます。ラインに追い込みラインを味方につけ、パスコースを限定できるからです。次号に続きます。